



NPO/
SORUCA
NonProfit Organization/Soft Resources of Urban and Country Association

通信

初春
2018

会員 各位

平成30年3月12日

巻頭言

NPOソフトインダストリー研究会

理事長 白石 嘉宏

力の次は頭そうして心へ・思いやり産業の時代へ

今、2月の19日です。冬季オリンピック羽生結弦、小平奈緒の金メダルを頂点にメダルラッシュ、中学生棋士藤井聡太氏はあれよあれよという間に6段。北朝鮮美女軍団、所得税の確定申告を前に国税庁の長官問題などこのところ話題に事欠きません。それで、今回の巻頭言はこのような話題は避けて「思いやり産業」の時代が本格化し始めたということにしました。

思いやりには2つの方向性があります。その一つは利便性を上げて時間をセーブする方向、もう一つは人の心に寄り添うという方向です。単身世帯の増加、高齢化の進展が重いやりに一段と拍車をかけます。そうして思いやりの基盤となるのがAIです。

人はつらいことは出来るだけしないで、好きなことをすることに努めてきました。判りやすいこととして、人は食べ物を得るのに羊などを手なずけその中で暮らすようになります、狩猟に出なくても暮らしている周りに食べ物が居れば良いから。同様に穀類など保存性に富んでいるカロリーが高い農産物の栽培を始めました、その上土地を耕すのに人の力は非力なので牛や馬を使いました。さらに風の力で臼を回し製粉する、水をくみ上げるなど。この人が持つサガと頭脳はやがて産業革命にいたり 20世紀までの暮らしの姿へと進んでいきました。

此処までは主に力・パワーの利活用に注力していましたが、今世紀の始まる前からITの時代になりさらにコンピューターと記憶媒体その集権機器の性能と小型化が一気に進みました。

頭の代替です。

利便性を上げて時間をセーブするということはネットで欲しいものを選び購入支払清算し宅急便で取り寄せるというのが代表的です、そこから今各社はIOTへの取り組みを本格化させています。電化製品から始まりやがては全てこの流れに乗って行くでしょう。

ドローンでの宅配、自動運転などなど。

力の代替、続いて頭の代替の次に来るのは思いやりです。心の癒し、喜びに向かいます。ソニーのアイボやアザラシ型ロボットのパロなどがその先駆けになっていますがこの分野はこれから本格化します。力の代替、頭脳の代替のあとは心のケアが産業になります。21世紀は「思いやり産業」が本格化する時代です。

SORUCA 通信 contents

- 巻頭言 / 力の次は頭そうして心へ・思いやり産業の時代へ / 白石 嘉宏
- 「儲かる産業」の視点で、国内資源を見直す / 奥原 英彦
- 大相撲 ---昔の政治家---フラリーマンと給与減少 / 白石 嘉宏
- 「見たことしたこと」 白石回想録 13 / 白石 嘉宏
- 編集後記 / 渡辺 勝範



「儲かる産業」の視点で、国内資源を見直す

～ 豊富な自然資源を生かしたSHEPアプローチ ～

理事 奥原英彦

平成30年1月22日、第196回国会における施政方針演説で、安倍内閣首相は「地方創生」における「農林水産新時代」の目玉として、「森林バンクの創設」などによる「林業改革への挑戦」を述べています。「豊富な森林資源を有する我が国の林業には、大きな成長の可能性がある」という趣旨は、そのとおりです。

しかし、その「政策手段」が森林バンクなどの「大規模化」という、かつての「米作り農業」で失敗した手段を、再び持ち出していることに、私は、疑問を感じてしまいます。

経営の視点から見れば、「生産（供給）構造の改革」は「需要構造へのマッチング（儲けのビジネス化）」が最重要課題であり、林業改革は「多様化」する「消費者需要と供給体制のミスマッチ解消（儲かる産業化）」にこそ、解決策があるはずです。

1. 成長しているマーケット（需要サイド）

国土面積の67%が森林によって占められている我が国では、確かに森林資源は「豊富」です。

また、国民性としても、「石や土」よりも「木」製の住宅や家具を好む傾向があります。

実際、「家具建具」の販売額は5兆円、製造業としての「木材・家具」も、ほぼ同額の4.6兆円の出荷額であり、伸び率も年率6～7%と高い成長率を誇っています（図表1）。つまり、市場（マーケット）を需要サイドから見れば、森林資源が豊富な我が国では、木製品を使うライフスタイル（文化）が根付いており、成長率の高い市場を形成しているのです。

2. マーケット軽視のつけ（供給サイド）

一方で、供給サイドから見ると、一次（供給）産業である「林業」の産出額は2千億円程度に止まり、伸び率も年率マイナス（-）7%台に沈んでいます（図表1）。現在でさえ、82万戸という林家戸数がありながら、林業政策が市場（マーケット）の構造変化とは関係なく「木を植え、育成し、切り出すだけ」の供給機能に特化させてきたことで、マーケットとの「距離」が大きく離れてしまったことに原因があると考えられます。

この林業政策は、「八郎潟干拓」に代表される統制米作り農業と同様の構造的失策であり、マーケット動向と乖離した大規模化は、かえって供給機能の低下をもたらす「負のスパイラル」を生むと考えられます。

図表1 林業マーケットの需給構造

	従業者数	業所数	生産額	伸び率
H29 農林業センサス 林業	林業従 者 4.5万人	林家戸数 82.6万戸	木材産出額 2,182億円	△7.3%
H28 経済センサス 木材・家具製造業	19.5万人	1.3万所	出荷額 4.6兆円	+ 6.6%
H27 商業統計 家具・建具卸・小売業	14.2万人	7.0万所	販売額 5.0兆円	+ 7.3%

3. 「売るために切る」という SHEP アプローチで

現在の世界的に注目を浴びている農業モデルに、2006年から始まったケニア農業省と JICA の技術協力プロジェクトにおいて開発された小規模園芸農家支援のアプローチ SHEP (Smallholder Horticulture Empowerment & Promotion) があります。

これは、野菜や果物を生産する農家に対し、「作って売る」から「売るために作る」へと、「儲かる農業」の意識変革を起こし、営農スキルや栽培スキル向上によって農家の園芸所得向上を目指すものです。ケニアでは、このアプローチの実践により、わずか2年間(2007年6月～2009年10月)で2,500もの小規模農家の収入を倍増させることに成功し、現在ではアフリカ全体に、この SHEP アプローチが広がっています。

実は、この「儲かる農業」モデルの原型は、日本における道の駅などでの「農家直販」アプローチであり、供給サイドだけで「単品」で「大規模・大量生産」するのとは反対に、マーケット動向を見ながら「多様品」を「小規模・少量生産・販売」する方が、儲けが大きいというものです。

小規模林家の多い林業の振興にも、「切ってから売る」から「売るために切る」という、この「林家直販」 SHEP アプローチで臨むことが大事であり、そのためには、農林水産省幹部の「(ビジネス) 意識改革」こそが求められているのではないのでしょうか。

大相撲

昨年から今年の正月過ぎまで日馬富士による貴ノ岩への傷害問題で相撲協会への関心が高まりました。私は何時も朝は時計代わりにテレビをつけています。だからこの問題を聞くに従い、今どきのメディアとは本質を見る気が無く、毎日騒ぎ立てることで視聴率者を自社の報道(これ報道ですかね?)に引き付けようとしているのだと、つまり実情分析などはしないのです。始めに、相撲は興行です。観客の入場料、テレビなどの放映料、部屋によってはタニマチの支援料で成り立っています。どのスポーツ(興行だからあえてスポーツと分類します)でも観客を引き付ける、増やすことが経営の要です。昨年までこの人気を維持してきたのが、モンゴル系の3横砂と日本の1横綱です。横砂のいない大相撲になったら観客は減るでしょう。経営者側(親方衆)にとって彼らは良い人かどうか以前に居てもらい、土俵に上がってもらわないと収益上困るのです。だからモンゴル勢の扱いは丁寧になるでしょう。貴ノ岩もモンゴル出身です。また、相撲は一般の社会と異なり、所謂「村」社会です。評議員会会長の池坊夫人は初めに相撲協会に報告しないのはけしからんとご立腹でした。刑事事件など一般社会では犯罪に当たることより「村」が大事です。彼女も華道という伝統的村社会に属していた人です。また、今になってからですが貴乃花親方の話が表に出るようになって来ました。貴乃花親方が持ち前の正義感で真っ向ガチンコの勝負を協会とするとさらにマスコミは騒ぎ立てます。相撲は土俵の外が人々の関心を高め集めることになるでしょう。皆さんもうしばらく、「洞ヶ峠を決め込む」ことにしませんか。

昔の政治家

昔の政治家、と言ってもそんなに昔ではありません、政治の外の話ですが、我が家のそばの道路は角栄通りと言われています。椿山荘より目白寄りに田中角栄邸がありました、朝、彼を乗せた車はそこから目白通りを通り江戸川橋から神楽坂を抜けます。するとすぐに九段の靖国神社その先は半蔵門・永田町・国会議事堂です。帰りはこの逆で永田町・九段・神楽坂と、そこで途中下車、神楽坂の愛人宅により、そして椿山荘の先の自宅に戻ります。今もそうですが神楽坂は片側1車線の細い道です。田中角栄は偉い人だったので、この神楽坂の通りを午前中は角栄邸からスムーズに走れるように一方通行にそうして午後にはすぐに神楽坂に行けるように逆方向の1方通行にしました。つまり、神楽坂通りは午前中と午後で一方通行の方向が逆になるのです。嘘だと思う人は12時少し前に来て神楽坂で昼御飯を摂り1時過ぎに店を出れば本当だとわかります。

春日一幸という民主党の委員長が居ました、正三位勲一等旭日大綬章を受けました、演説のうまいことで有名でしたが此処ではそのようなことでなく、彼には愛人が二人や三人でなく一杯いました。国会の場で彼はこのことを質問されました。彼の答弁は明快でした。質問者に愛人は一杯いるが皆不満は持っていない嘘だと思うなら彼女らの所に行って聞いてこい。と言い放ったのです。すごいでしょー。それでこの問題は一件落着、それ以上の追及は有りませんでした。

政党助成金、というお金を党にもらい、議員個人としては歳費として年間1,50万円、期末手当520万円、文書交通費1200万円、立法事務費780万円、その上議会雑費として1日当たり6千円。これ、昔の政治家の様に自分で子分を養うように集めることもせず、ひたすら頂き一筋。その上年金もらおうとたくらんでいます。自立した政治家はもう出てこないのかしら。。

フレリーマンと給与減少

過労死が社会問題となり企業も残業を減らそうとの取り組みを本格化させ始めた。経営側は事務所の電気を一定時間になると消してしまう、残業するにしてもそのための手続きを厳格化する、その結果サラリーマンは残業が出来ないから給料が減ってしまう。帰りがけに軽く一杯帰宅時間は夜遅くという今までのライフスタイルを変えなければならなくなったサラリーマンが増えてきているそうです。会社からは追い出される、かといってまっすぐ帰宅したのでは女房に迷惑がられる。小遣いも少なくなり帰宅前の一杯という訳にもゆかず街に公園にたむろする大人をフレリーマンと呼ぶことになったそうです。欧米ならもとより残業という習慣がなく、仕事が終わればほとんどの人が自宅に直行、そうして家族と過ごすのが普通なのですが。この傾向は過渡期の姿と思いますが、駅前の飲食店街は活力を失うでしょう。アベノミクスの働き方改革は国民所得の低下に向かってしまうのでは。机上の検討・計画づくりは3本の矢から始まったが大切なことは実態をよく調べその実情を踏まえた上での施策を立てることです。人口減少、高齢化はそれだけでなくも需要を減らします。託児所の次は宅老所(老人ホームではなく)、さらにフレリーマン収容施設の検討も視野に入れないと。何しろ欧米型社会とそこでライフスタイルと日本人のライフスタイルは違うのですから。働き型改革が社会に活力をあてるのか衰退に向かうのか、皆で良く見てゆきましょう。



「見たことしたこと」白石回想録—13

(お名前の前に「*」のマークのある方は検索いただくとご覧になれます)
新会社の名前は「ジャパントイムシェアリングシステム」という名前です。社長は*長谷川重三郎さんです。彼の父は渋沢栄一さんです。丸ビルに居る渋沢正一さんとは叔父と甥の関係です。長谷川さんは大蔵大臣の勧めにより三菱銀行との合併を進めましたが前頭取当時会長の*井上薫さんの反対にあい井上さんは第一銀行の頭取に復帰し、長谷川さんは相談役に退くことになりました。このことによりジャパントイムシェアリングシステム設立は長谷川さんの救済処置との噂もありました。ちなみに本件をバックアップした当時の経団連会長の*植村甲午郎さんは渋沢正一さんの義父です。

当時は大型高速の計算機を中心にネットワークを張り巡らすという考えが主流でした。東京に戻り、丸ビル内の渋沢事務所を訪ね、入社する事務所はと伺ったところ、茅場町の大和証券の一室を借りている、田中信次郎さんと言う方が担当だからまずはそちらに行き、次に CDC6600 は昭和通りに面した伊藤忠電子計算サービス（現：伊藤忠テクノサイエンス）にありそこに*塚本祐造社長が居るからそれぞれで挨拶に行くようにとのこと。塚本社長は真珠湾攻撃の時のゼロ戦パイロットとのことでしたが、いろいろ噂のある方でゼロ戦の戦闘能力を上げるために無線の改良に取り組んで成果を挙げたという一方 8,000 メートルのゼロ戦乗りとのこととも聞きました。伊藤忠電子計算サービスでは新会社の常勤として水口さん鈴木さんと言う二人の中堅社員が選ばれていました。同じ目的の仕事を進めるのですが、現在の様にインターネットがある訳ではなく、パソコンもスマホもなく、ファックス（1972 年から日本では製造）もない時代です。そこで最初の仕事は事務所探しになりました。千代田区紀尾井町の都市センターホテルの斜め向かいに丁度良いビルが見つかりその 1 フロアを借りました。次に社員の採用です。採用は水口・鈴木両氏にお願いしそれぞれ専門分野を持つ男性 5 名の方と女性を 2 名採用しました。ゼロからのスタートです。毎月一度の役員会は、社長の*長谷川重三郎さんが第一銀行の相談役室からベンツで来社し渋沢さん塚本さんと大和証券の田中さんが参加します。話の内容はたわいないもので事業計画に当たるような話は出てきません。私にとっての収穫は議事録を作り塚本さんから見ていただくのですがその都度添削を受けます、これは収穫でした。

そうこうしているうちに半年ほど過ぎてしまいました。私は渋沢さんにこのままでは資本金を食いつぶして行くだけでいずれ立ち行かなくなりますがどうするので

すか、とうかがいました。渋沢さんは塚本さんが計算機を使わせてくれない、君、塚本さんのところに行って毎月1週間ぐらいこちらで使えるように折衝してきてくれ、と言うのです。私はそのような事業の根幹にかかわることは役員会に諮るとか、渋沢さんが直接塚本さんに話すことだと思います。と進言しましたが、渋沢さんは君が行ってくれと言うばかりです。仕方がないので塚本さんに電話し、上記の件で伺いたいと伝えましたところ、伊藤忠の本社に来なさいと指示されました。

指示された通りに伊藤忠本社に伺うと受け付けから立派な男性が現れ、ご案内します、とのこと。ついて行くと立派な部屋で大きな机の上に*伊藤英吉（伊藤忠商事会長）という名前の名札だけが机の上に乗っていました。机の前の応接セットで座っていると塚本さんの他に2人が入って来ました。塚本さんは一番下座に座り二人の人に私を紹介してくれました。1人は当時伊藤忠顧問の*瀬島龍三さん、もう一人は元通産省商政局長の*金井多喜男さんです。

瀬島さんはしばらく私を見ていましたが、やがて「お若いの、あまり騒ぎなさんな。」との言葉を発しました。この後は瀬島さんも周囲も全く一言も話しません。塚本さんは「白石君わかったろ、これで戻り渋沢さんに今日のことを伝えなさい。」と言うと瀬島さんに向かい深々と頭を下げて退室するのを見送りました。

二つのことを思いました。一つは瀬島さんと言う元大本営参謀がソ連との間でどのような取引をし、その結果60万人の日本兵がシベリヤに抑留され、強制労働で6万人の日本兵が命を落としたのか？

もう一つは、塚本さんがこの瀬島さんという人を私の前に出し、渋沢さんに伝えなさい。と言ったことの背景と全体像です。

丸ビルの渋沢さんの事務所に戻りこのことを話すと*コバチュー（小林中）にでも話して見るか、とのことでしたが結局そこへは話をしないままに時間が過ぎてゆきました。CDC6600は当時の国内では性能的に並ぶ機種はなかったので計算の注文は多くフル稼働状況でした。この打ち出の小槌を伊藤忠電子計算サービスは独占するという方針を取ったのです。

渋沢さんはこの経過を表に出すことも出来ず、かといって減資解散も名誉の上からできません、どうにか会社を維持したいと当時の最新のマイクロフィルムシステムとか他にもいくつかのシステムとの接触・取り込みを図りましたが新規の分野は社会が認知するのに時間がかかります。

このような状況を通産省に説明に行くのも私の役目でした。もちろんありのままの話は出来ません。当時の電子政策課長はのちの大分県知事、一品一村運動を提唱した*平松守彦さんです。その横に居たのが課長補佐の*宮野素行さんです。

彼らは元事務次官の*佐橋滋さんを納める方策を進めていました。

原案は元官房長*渡辺弥栄司さんです。

（次号で余暇開発センターの設立を書きます。）

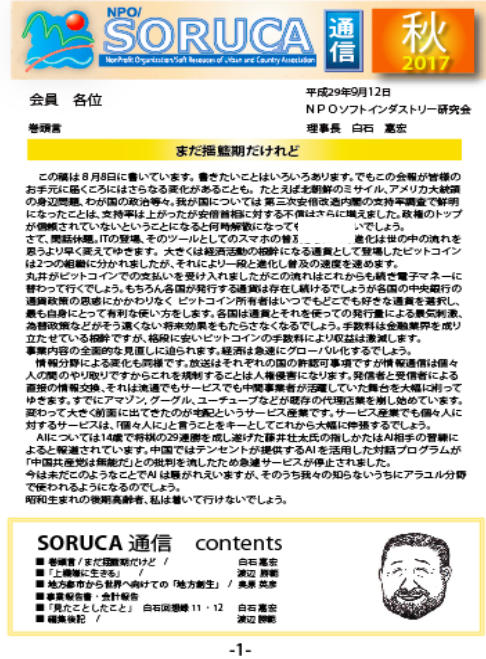
<編集後記>

2月の酷暑の富士山で開催された経営者の自己革新セミナーに参加した。70歳を超えてのため、滝行だけは許されなかった。心に垢がびっしりと張り付いていることに気づかされた。お茶碗を両手で持ち上げてから箸をとる。一口づつ箸を置き30回噛む。椅子は立ったら両手でしまう。靴は脱いだら手で揃える。洗面所の後始末はきれいに流し、鏡、洗面器の水滴をふき取る。後始末の徹底に気を配っていると、不思議と気持ちよく、心が落ち着き、自分の生き方を前向きに捉えられるようになる。また自分が出来ていなかった後始末の数々がきれいに列挙されてきた。約束は守る。言ったことはやり遂げる。手紙の返事はすぐに出す。お金はきれいに。仕事部屋は毎日片付ける。

後始末を徹底すると、気づきが生まれてくる。生き方の方向が自然と示されてくる。気づきとは神がそのことを成し遂げようと最高潮に達した時 起こるものであるという。富士山での3日間の研修は、残りの人生をいかに生きてゆくのかの示唆を与えてくれた。肩の荷を下ろし素直に生きて行こう。(渡辺勝範)



SORUCA のホームページの画面です。
<https://soruca.org/>



「特定非営利活動法人ソフトインダストリー研究会」広報誌
 SORUCA 通信 (2018年初春号)

発行責任者 白石 嘉宏
 発行所 NPO ソフトインダストリー研究会
 東京都新宿区矢来町 47 番地
 TEL: 03-3266-1769
 FAX: 03-3266-1764

<https://soruca.org/>
 編集人 渡辺 勝範・長谷川 毅
 発行日 2018年3月12日



NPO/
SORUCA
 NonProfit Organization/Soft Resources of Urban and Country Association

発行元: NPO ソフトインダストリー研究会

感謝